

おと さだ  
**乙 貞**

第 194 号 通巻 34 巻 第 1 号  
平成 26 (2014) 年 5 月 26 日発行

守山市立埋蔵文化財センター  
TEL/FAX 077-585-4397

〒524-0212  
守山市服部町 2 2 5 0 番地

平成 26 年度がスタートして、早、2 ヶ月近くが経過しました。木々の緑も一段と鮮やかさをまし、陽光も日増しに強くなり、初夏にむけての装いをみせはじめています。

そのような中、市内遺跡の発掘調査も本格的に始まり、早くも終了した調査もあります。隔月発行の乙貞今号では、前年度末の発掘調査の成果とこの 2 ヶ月の埋蔵文化財センターの取り組みをお伝えしていきます。

## 発掘調査だより

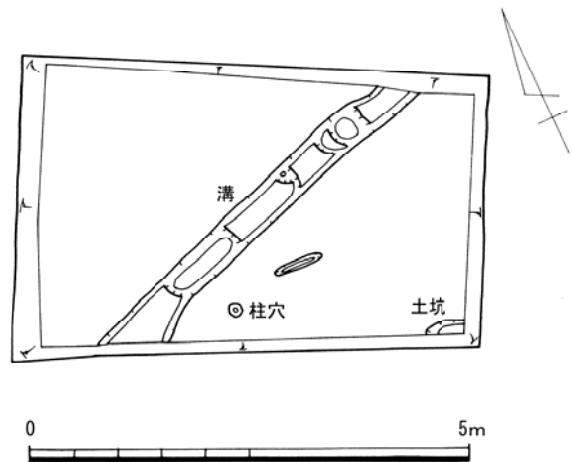
では、早速、遺跡発掘調査成果を紹介しましょう。

### 1 吉身北遺跡の発掘調査（第 39 次調査）

JR 守山駅近くの勝部一丁目字獅子羅において、マンション建設工事に伴い、2 月 27 日から 3 月 14 日の期間で発掘調査を実施しました。

調査は試掘調査で遺構が確認された約 100㎡を対象に行いました。調査の結果、古墳時代後期とみられる土坑や溝、柱穴などを検出しました。

守山駅周辺には、古墳時代後期の集落遺跡である吉身北遺跡や吉身南遺跡の広がりが知られていて、竪穴住居など多くの遺構が確認されています。今回検出された遺構も一帯に広がる古墳時代後期の集落遺跡の一部と考えられます。 (小島)



▲ 吉身北遺跡検出遺構平面図

### 2 本像寺遺跡の発掘調査

今宿 1 丁目字中ノ町 142 番地他の市街地で、民間の宅地造成に先立ち発掘調査を実施しました。

調査地は旧中山道の隣接地で、これまで調査が行われていない場所です。現地調査は平成 26 年 2 月 19 日から同 2 月 28 日までの期間で、約 150㎡を対象に実施しました。

調査の結果、近世とみられる溝や柱穴、土坑などを検出しました。遺構の密度は希薄ですが、中世末から近世にかけての集落が中山道沿いに営まれていたことがわかりました。 (伴野)



▲ 本像寺遺跡 溝や柱穴の検出風景

## トピックス

### ■平成 26 年度埋蔵文化財センター春季特別展の開催結果

平成26年度春季特別展は、『守山の弥生遺跡群—服部遺跡・下之郷遺跡・伊勢遺跡—』という開催テーマで、平成26年4月26日（土）から5月6日（祝・火）までの期間で開催しました。

今回の特別展では、守山の弥生遺跡として知られている前期の服部遺跡や中期の下之郷遺跡、そして後期の伊勢遺跡などの調査成果を通して、ムラからクニへと発展する過程を理解していただくことを目的に開催したものです。

ゴールデンウィークと重なる11日間の開催期間で、約200名の見学者がありました。



▲ 特別展開催風景

### ■「あうん塾」の写生会が開催されました



▲ 写生風景 それぞれの場所でオンリーワンの風景を描きました

桜の花の見ごろを迎えた4月12日（土曜日）に、こどもの美術応援「あうん塾」の写生会が埋蔵文化財センターでは、開催されました。

この写生会は、「満開の桜を描こう」というテーマで、幼稚園児と小学生を対象に開催されたものです。参加した幼稚園児、小学生約50名とその保護者は、晴天のもと、クレヨンや絵の具を使って、思い思いの桜の花の絵を描いていました。

なお、こどもたちの描いた絵は、6月1日から15日まで、あまが池プラザで展示されます。

### ■中洲小学生が古代の火おこし体験！

春季特別展開催中の4月30日（水）に、中洲小学校6年生28名が歴史の学習に訪れました。学校では、ちょうど弥生時代を学習していることから、地元の遺跡である服部遺跡や国の史跡に指定されている下之郷遺跡、伊勢遺跡などから出土した遺跡の展示を熱心に見学していました。

見学の後は、「古代の火おこし」体験に挑戦し、12名が見事に火をおこすことに成功しました。



▼ 古代の火おこし風景

## ■中洲幼稚園児も見学に訪れました！

5月17日、地域の施設見学の一環として、中洲幼稚園児が埋蔵文化財センターの見学がありました。

当日は、隣接する野洲川歴史公園サッカー場・ビックレイクでのボール遊びの後、年長組15名が訪れました。施設各所の見学と木工細工を体験した後、二人一組で馬形埴輪などの展示品のジグソーパズルに挑戦し、みごと全員、完成させました。



▲ 二人一組になったののパズルの組立て風景

## ■その他

5月21日（水）には、平成26年度守山市新規採用職員の研修の一環として、24名の職員の施設見学がありました。初めて来館した職員が大半で、発掘調査出土品が保管された収蔵室や土器などの復元作業風景を目の当たりにして、

## 埋蔵文化財センター友の会だより

5月18日（日）には、埋蔵文化財センター友の会（福原喜久雄会長・会員68名）の総会と見学会が開催されました。

埋蔵文化財センターで行われた総会後の見学会は、近江八幡市に出向きました。八幡山城下の伝統的建造物群保存地区の町並みと八幡堀、そしてその町並みの中に点在するヴォーリス建築の見学が今回の目的となりました。

五月晴れの好天の下、約30名の参加者は、近世の民家が軒を連ねた町並みを散策しながら、観光スポットで立ち止まり、近江八幡観光ボランティアガイドの説明に耳を傾けていました。



▲ 総会風景（埋蔵文化財センターにて）

▼見学会風景（ヴォーリス建築）



# 歴史入門講座の受講生募集! 受付は 6/1(日)から

## 平成 26 年度 守山市立埋蔵文化財センター歴史入門講座のご案内

かつて、近江と呼ばれた滋賀県は、原始古代から現在に至るまで揺ぎない要衝で、ヒトとモノが交錯し、独自の文化を築き上げてきました。平成 26 年度の歴史入門講座は、「近江を築いた“ひと”」というテーマで、考古学分野の気鋭の専門家により、滋賀・近江の悠久の歴史の中で躍動した人物や群像の実像に迫ります。是非、受講ください!

### 【講座日程】

- 第1講 6月21日(土)「“ひと”をあらわす聖なる象徴 ―土偶にこめた縄文人の想い―」  
講師：公益財団法人滋賀県文化財保護協会調査普及課 副主幹 松室孝樹氏
- 第2講 7月19日(土)「日本人に最も影響を与え続ける男“最澄” ―その思想の源流を探る―」  
講師：公益財団法人滋賀県文化財保護協会事務局 次長兼調査普及課長 大沼芳幸氏
- 第3講 8月16日(土)「古代史上最大の内乱・壬申の乱 ―大海人皇子と大友皇子―」  
講師：大津市立埋蔵文化財管理センター 所長 松浦俊和氏
- 第4講 9月20日(土)「城から見た“天下人” ―信長・秀吉・家康と近江―」  
講師：公益財団法人滋賀県文化財保護協会調査普及課 副主幹 岩橋隆浩氏
- 第5講 10月18日(土)「彦根藩井伊家三十五万石を支えた“ひと” ―彦根城重臣屋敷の発掘調査から探る―」  
講師：公益財団法人滋賀県文化財保護協会企画調査課 副主幹 瀬口眞司氏
- 第6講 12月20日(土)「東北震災復興の今 ―東日本大震災復興支援発掘調査に携わった“ひと”に聞く―」  
講師：公益財団法人滋賀県文化財保護協会企画調査課 副主幹 北原 治氏

- 【開催場所】 埋蔵文化財センター2階会議室
- 【開催期間】 平成26年6月から12月(11月を除く)全6講
- 【開催時間】 各講とも第3土曜日の午前9時30分から11時30分まで
- 【定員】 先着60人
- 【受講料】 1,200円(全6講分 1講のみ受講の場合は、200円/講)
- 【申込み先】 守山市立埋蔵文化財センター 電話・FAX 077-585-4397  
申し込み時間は午前9:00~午後4:00  
ただし、6月3日(火)は休館日で、電話による申し込みはできません。

【後記】新年度の人事異動により、埋蔵文化財センターの人員体制も変わりました。畑本政美前所長が教育委員会事務局に異動し、後任に岩崎茂が就いています。なにぶんにも、すべてが初めてのことばかりなので、事業の事後点検での反省点は枚挙に暇がない状態です。

この乙貞の発行担当者も代わり、岩崎が編集発行を行いました。一番の発行目的が遺跡発掘の情報発信であるのに、調査場所が視覚的にわかる工夫がなかったことを反省しています。次号以降、読み手の側にたった紙面づくりを心がけていきます。お読みいただいた皆様のご意見も取り入れたいとて生きたいと思っていますので、よろしく願います。